

歴史をたどる

芸術の街の先駆け

笠間は陶芸家だけでなく、音楽や美術のアーティストが数多く住み、独自の活動をしているアートの街、芸術の街である。その基礎を作ったのが

長谷川仁(1897〜1976)という笠間にルーツを持つ画商である。先祖は笠間藩の藩医。笠間の小学校で学び、明治学院大学を卒業。昭和初期に東京の銀座に日本の画廊の先駆けとなる「日動画廊」を設立。太平洋戦争後に世界の美術館や画廊を視察し、常設館画廊

を新設。日本を代表する洋画商となった。昭和39年に、当時の笠間市長・長谷川好三が「芸術の村」を建設する計画に対して仁は初代村長となり、資金援助を行い、鎌倉市にあった北大路魯山人のアトリエを移築した。これが「春風万里荘」である。

芸術の村づくりは決して順風満帆ではなく、苦労を重ねながら少しずつ発展し、現在の形となった。昭和47年には「笠間日動美術館」を建設。世界的な美術品・工芸品を身近に感じられる場所となっている。

現在、茨城県陶芸美術館では企画展「魯山人クロッシング」が開かれている(7月7日まで)。仁の足跡を思いながら、この展示会を見るのもいいだろう。(雄)



春風万里荘の長谷川仁の銅像

【井筒屋ニュース】

達人のお茶を味わう

高山烏龍茶の達人・張峻和氏の作ったお茶を、笠間の器で味わう「笠間の器で本格的に台湾茶」が開かれ、杉山路代先生による本格的なお点前の台湾茶がふるまわれました。



民話を語る会が井筒屋で始動

囲炉裏を囲んで笠間の民話を語る会による、民話語り〜ひとつきいてくだされ〜が開かれました。次回は7月21日(日)午前11時から開催予定です。



朝から落語を満喫

「万葉亭小太郎の井筒屋朝の会」で、大勢のお客様が朝から落語を満喫しました。



琵琶とピアノで民話

笠間の民話が、石引康子さんの琵琶と小林萌里さんのピアノによって演奏されました。

【後記】

連休中に稲田の西念寺で開かれた浪曲の会に行きました。戦時中「唄入り観音経」で一世を風靡した浪曲師・三門博が、晩年は稲田に住み、西念寺にお墓があることから、孫弟子の三門綾さんが企画した会です。会の中ほど、案内役の方から「笠間市は図書館にでも三門博コーナーを作るべき」という声が出ましたが、正直、三門博を知らなかったというのが本音。他のお客様も、同じような反応でした。資料がほとんどなく、地元の方の記憶にも残っていない方ですが、芸人として超一流だったことは間違いないです。改めて、笠間の先人の一人として、三門博の足跡を掘り起こして、記録したいです。(雄)